

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月20日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホームとうごう苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市東郷町斧淵2636番地1 (電話) 0996-21-6551
自己評価作成日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年11月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、木のぬくもりを大切にした建物の中、「やさしい手に 温かい心を添えて 住みなれた地域の中 明るい笑顔で 心のこもったふれあいと その人らしさを大切にします」の理念を掲げ、入居者様が毎日を笑顔で安心して過ごされるよう取り組んでいます。開設後12年が経ち、入居者様の認知症の進行、身体機能の低下、重症化などありますが、お一人お一人の個性を大切に、それぞれのレベルにあったケアを行いながら、花見、ドライブ、夏祭り、そーめん流し、敬老会、一日遠足、クリスマス会など外出の機会を作り、楽しく暮らしていただけるよう努力しています。

安全面の配慮として、入居者様や地域協力者を含めた夜間避難訓練を実施したり、様々な災害に対応するための防災計画を作成するなど、スタッフ、ご家族、地域の方々、ボランティアの方々と協力し支援しています。また、今後ますます進むであろう入居者様の重度化や看取りに対応するため、医療との連携をし、ケアの質を高めるため、更なる資格取得を目指し、各種研修会に参加するなど、スタッフ一同、協力しながら質の高いケアを提供できるよう、毎日業務に励んでいます。

○ホームの周囲は静かな住宅街であり、同一法人の介護老人福祉施設や小規模多機能ホーム等も近隣に位置し、災害時をはじめとして相互に協力関係が築かれている。協力医療機関との連携も密に図り、特に利用者の健康管理と安全確保に重点を置いて、日常のケアの充実に管理者と職員が一体となって取り組んでいる。

○地域との交流にはホーム開設の頃より細やかに配慮を重ねており、清掃活動をはじめとして地域のいきいきサロンなどへの積極的な参加や、ホームで実施の地域サロンでのレクリエーションの支援や地域の方々への認知症についての理解促進など地域との協働関係の構築に努めている。毎年多くの中高生の職場体験学習や実習の受入れも積極的に行っている。

○管理者や職員は、利用者の思いや意向、また日常の変化などについて、利用者及び家族とのきめ細かな対話や利用者観察から十分に把握し、可能なことはすぐにでもサービスに反映させようとする強い意志が感じ取れる。常に職員の良好なチームワークのもとで活発な意見交換を行い、より良い支援を実現することに視点を当てた柔軟な取り組みが展開されている。

○年1回は地域の消防署や住民の協力を得ながら法人全体での消火訓練・避難訓練を実施すると共に、夜間想定訓練も実施して体制整備に努めている。また、防災に関する研修の充実や近隣の方々への協力依頼を通じて協働関係を築くなど防災への意識は非常に高い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念をスタッフ全員で考え作成、朝晩の申し送り時に唱和し、業務の中で常に理念を意識し、理念に沿ったケアに努めている。	法人及びホーム独自の理念をもとに、年度の目標と事業計画を掲げて、地域とのふれあいを大切にしながら、利用者が毎日を笑顔で安心して暮らせるように支援に取り組んでいる。理念は掲示して毎日の申し送り時の唱和などで意義の共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会の大掃除への参加、地元中学生職場体験や福祉体験、福祉科高校生の実習受け入れなど、認知症の理解や認知症の方々の支援方法などを地域へ発信している。	日常的に散歩や買い物などに出かける際には人々と挨拶や会話を交わし、地域の清掃活動やいきいきサロンへの参加、中高生の職場体験学習や実習の受け入れなど行っている。法人の夏祭りには多くの地域の方々が来られ、ホームで実施のサロンでのレクリエーションの支援や地域の方々への認知症についての理解促進など交流の機会が多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	避難訓練や行事の際、地域住民やボランティアの方々に、認知症の人への理解や支援方法を説明したり、サロンでのレクリエーション支援、ご家族へ認知症の方への接し方などについてお話ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回に開催し、利用者状況や運営、活動実績報告をし、助言や協力をいただき、グループホームへの理解を深めてもらっている。	会議は2ヶ月に1回定期的に行われ、利用者や家族、地域住民、行政や消防署の職員、民生委員等が参加されている。ホームの運営状況や問題点への取り組み状況の報告がなされ、委員とは十分に話し合いが行われている。会議での情報や提案を職員で共有して、防災計画の充実など具体的に日々のサービス向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会に参加していただいている。また、福祉事業や事務手続き（生活保護）などの分からないことやボランティア依頼など、日頃から密に連携し、協力をもらっている。	行政の職員に運営推進会議に参加して頂くほか、訪問や電話での、入退所の手続・認定更新の手続等の相談に助言・対応して頂くなどの連携を図り、サービス向上に取り組んでいる。また、グループホーム連絡協議会にも出席して、他の施設の職員とも意見や情報の交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、ホーム内研修を定期的実施して、常に身体拘束がないか振り返りを行っている。実際の事例検討をするなどして、常に禁止となる行為を行っていないかをスタッフ全員で振り返り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉による拘束の排除を含む身体拘束については、事例検討も重ねて日々のケアで振り返っている。高齢者の権利擁護や虐待防止、身体拘束等の研修も実施され、十分な理解のもとケアへの反映がなされている。ご家族とも意見を交換を行い、安全を確保しながら利用者の自由な暮らしを支援している。日中はホームの玄関等の施錠も行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、高齢者虐待防止法等について、定期的に研修会を実施している。また、実際の事例検討を行い、高齢者虐待になっていないか、特にスピーチロックなどを行っていないか、スタッフがお互い注意し合いながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の関する研修会に参加したり、権利擁護が必要と思われる入居者には、個々に関係者と協力し、活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約については、十分に時間を取り、各項目丁寧に説明している。また、不安や疑問点がないか確認しながら、納得を得た上で、契約されるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の状況報告を兼ねて、苑だよりを作成。家族会の開催、面会簿の工夫、状況報告時や、運営推進会議時に意見や要望を貰うようにしている。また、普段の面会時から、「何かご心配な事はないですか？」等、職員から御家族へ問いかけ、何でも言っていたけるような関係作りに努めている。	利用者の思いや意見を日常会話や表情の見守りなどで、ご家族からは訪問時や運営推進会議、家族会や年2回の大掃除時の対話、また面会簿の活用で把握に努めている。日常的には申し送り時や連絡ノートの活用で情報共有を図り、毎月のスタッフ会議やミーティング等で解決策を話し合い、ケアに具体的に反映している。ご家族にも電話やメールのほか、「苑だより」の郵送などで必要な報告を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者とスタッフが上下の関係なく接し、朝夕のミーティングやスタッフ会議などでは、スタッフ全員の意見や提案を聞く機会を持ち、出された意見などは、代表者や管理者、スタッフ全員で検討し、運営に反映させている。	代表者や管理者自身が日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員とのコミュニケーションを密にしている。日常のミーティング及びスタッフ会議等を通じて、職員の意見や提案を聞き取り、働きやすくやりがいを持って働けるように現場環境や就業条件の整備、職員の資格取得支援や利用者へのサービス向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、個別面談を行うなどして、スタッフ一人ひとりの仕事に対する思いや希望、日々の努力や成果を常に把握し、働きやすく、やりがいや向上心を持って働けるよう、また資格取得のための支援など、職場環境や条件の整備に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、スタッフが平等に研修に参加できるよう、研修を計画実施、研修参加の希望を聞き、資格取得を推進して、受験費用の補助など、職員を育てる支援を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、事業者がGH連絡協議会に加入し、研修会や交流会に参加できるよう支援している。多くのスタッフが研修会などに参加して同業者との情報交換、ネットワークづくりに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切に、申込時や入居時に、ご本人に面会したり、見学に来ていただいたりして、馴染みの関係を作るよう努めている。また今の生活の様子や身体状況、不安なことはないかなどを伺い、安心していただくよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に、安心していただくようさりげない言葉の中で、現在のご本人やご家族の状況、不安や要望、困っていることなどを伺い、ホームでの生活や支援できること、ご家族に協力していただくことなどをお話しし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	気兼ねや遠慮をされないように、笑顔で、ご本人やご家族の話をお聞きし、今何が必要か、何を求めているか見極め、他のサービスを含めた総合的な支援が出来ないか検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、共に生活を支え合うという事を常に意識し、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも、自宅にいらっしゃる時と同様に、利用者との絆が途切れないように配慮し、常に入居者様の状況を報告している。また入居者様の対応に困ったときなどは、まず、ご家族に相談し、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やボランティアの協力をもらいながら、以前住んでいた地域のいきいきサロンに参加していただいたり、慣れ親しんだ場所へ出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	ご家族や馴染みの友人・知人が来訪される際には、ゆっくりとくつろげるように支援している。また、ご家族やボランティアの支援も得ながら、本人が希望する自宅への帰宅・墓参り・買い物・近隣のドライブ等のほか、地域のサロンや外食など、慣れ親しんだ場所への外出を可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者様同士がいつでも話ができる環境を作ったり、コミュニケーションが取りにくい入居者様も、スタッフが関わり、社会性を保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、入居者様御家族が訪問して下さり、必要に応じて、相談に乗るなど、これまでの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、本人の思いを把握し、大切にしています。意思疎通の難しい方には、ご家族からも情報をもったり、スタッフ会議や担当者会議で検討するなどして、できる限り希望に添えるよう努力しています。	ご家族からの聞き取りや毎日の生活の中で利用者個々に合わせた声かけを工夫しながら思いや希望をくみ取るように努めている。把握した内容は連絡ノートへの記述や申し送り等で共有し、スタッフ会議や担当者会議等で必要な意見交換を行い対応を検討すると共に、ご家族とも話し合いながら利用者本位の支援に結びつくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時や入居時に、ご本人やご家族に、これまでの生活歴やサービス利用の経緯を伺い、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、一人ひとりの生活リズムを把握している。日々変化する暮らしの中では、心身状況やできること、できないことの把握（まず、試してみることから始め）、有する能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が安心して暮らせるよう、担当者会議を開き、ご本人、ご家族、ケアマネ、スタッフ、主治医等で、それぞれの意見を反映してアセスメントやモニタリングを行い、ご本人が望む暮らしに、少しでも近づけるよう介護計画を作成している。	本人・家族の思いや意見、ケアマネ及び主治医、職員等関係者からの情報を基に意見交換して、本人が望む暮らしに近づけるようきめ細かなわかりやすい介護計画を作成している。ケアの経過は個別ケース記録やケアチェック表・連絡ノートに詳しく記録して毎月モニタリングも実施し、それをもとに介護計画の見直し修正がタイムリーに行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、食事量や排泄状況、バイタルや日常の変化や気づきなどを記入し、連絡ノートを活用するなどし、担当者会議の中で、スタッフ間で情報を共有し、入居者様のちょっとした言葉などをヒントに、ケアや計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じて、急な外出支援や通院介助など、柔軟な支援ができないか検討し、ご本人や家族の希望に添うように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう、地域のスーパーや訪問美容、民生委員やボランティア、緊急避難時の消防局や地域協力者など、地域資源と協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の、定期的往診のほか、急な体調不良時も、すぐに往診してもらったり、病院受診するなど、安心して適切な医療が受けられている。また、入居前からの専門医の受診が必要な入居者は、継続して適切な医療を受けられるよう家族と協力しながら支援している。	一人ひとりの利用前の受診状況を十分把握し、家族や医師との連携を密にして受診を適切に支援している。専門医の受診もご家族と協力しながら取り組んでいる。緊急時にも協力医療機関の医師や看護師と連携して適切な医療を受けられる状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフは、日常の関わりの中で、些細な体調変化を見逃さないよう早期発見に努めている。また、変化に気づいた時は、協力医療機関の看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は、スタッフが付き添い、入院に至るまでの状況を医療機関に報告するなど、情報交換を行っている。また、入院中も、面会に行き、安心して治療ができ、医療機関の相談室等とも連携を取りながら、早期退院ができるよう支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にターミナルについてのアンケートをいただいている。また、看取りの指針を作成し、重度化や終末期が近い場合は、状態が変化する度に、事業所、ご家族、主治医で今後の対応について話し合い、ご家族が望まれる対応ができるよう、チームで支援している。</p>	<p>重度化や終末期のケアについては、指針を基に入居時に利用者と家族に十分に説明を行い、ターミナルケアについてのアンケートも繰り返し実施してその意向を確認している。利用者の段階に応じて、職員やかかりつけ医、ご家族と十分な話し合いを行い、可能な限りの支援・対応ができる体制を築いている。また、定期的にターミナルケアについての勉強会も実施して、職員の意識や知識も高めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルを作成している。応急手当や蘇生法の研修を行ったり、その時に慌てないようにシュミレーションしておくなどの準備をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練の実施や防災教育、災害時対応の研修会を行っている。年一回の夜間避難訓練には、消防署や地域支援協力者の方々にも参加していただき、入居者様が安全に避難できるよう体制を整えている。今年より、地域協力隊の方用の帽子を作成した。</p>	<p>消防署や地域の方々との参加のもと、法人全体での訓練も含めて定期的に夜間も含む火災や地震を想定した避難訓練や消火訓練を実施している。災害時に備えた防災計画も作成し、自動通報装置やスプリンクラーなどの設備の充実にも取り組んでいる。食料や飲料水の備蓄も問題はなく、職員に対して救命講習等の防災教育も定期的に行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しく思いやりを持った声かけや、誇りやプライバシーを損なわない対応ができるよう研修会に参加するなどして勉強している。特に、スピーチロックなどの虐待行為がないよう、スタッフ全員で、注意しながら対応している。個人情報の取り扱いも、研修を行うなどして、十分配慮している。</p>	<p>利用者の人格を尊重し、日常のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、ミーティングや定期的な接遇・個人情報保護等の研修を通じて方法を共有して実践に取り組んでいる。特に日常のケアに際しては、優しく思いやりのあるような言葉遣いや声かけを工夫し、きめ細かな観察に努めるとともに、個人記録の取り扱いにも十分配慮して利用者の人格や感性を大切にしよう心掛けている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の生活の中で、自然に本人の思いや希望が聞けるよう、一人ひとりの状態に合わせた声かけを行い、「はい」「いいえ」で答えられ、自己決定しやすいよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>スタッフの都合を優先するのではなく、本人の気持ちや意思を優先し、一人ひとりのペースに合わせ、入浴や食事も、その日の体調や気持ちに合わせ、楽しく過ごしていただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に、髪をカットされたり、一人ひとりの生活習慣や好みに合わせ、外出時や行事の時には、お洒落を楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や、昔懐かしい物、好んで召し上がっていた物、行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。ミキサー食も、一品ごとミキサーし、見て楽しめるよう工夫している。弁当持参の遠足など、外食が楽しめる工夫もしている。	日常会話を通じて好みをくみ取る努力をして、旬の食材を活用して調理方法や見た目も大切にしたり盛り付けなど、日常的に多くの工夫をしている。また、野菜の下ごしらえや食事の後片付けなど、利用者と一緒にできる事を支援している。利用者の楽しみにつながるように、外食や弁当持参の外出・季節の行事に沿った料理やおやつなど、様々な工夫で利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や好み、食事の形態など、状態や力、習慣、病歴などを考え、とろみをつけたり、ゼリー状にするなど工夫しながら、十分な栄養が摂れるよう支援している。栄養状態が悪い方には、高カロリースや豆乳など、誤嚥に配慮しながら、その方に合わせた食材をお出ししている。夏場は、お茶ゼリーや、熱中症水を作るなどして、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔ケアが習慣となるよう支援している。また、入れ歯調整など、訪問診療を受け対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、座位ができる方のトイレ誘導、声かけを行い、職員2人で介助するなどして、できる限りトイレでの排泄をしていただき、自立に向けた支援を行っている。	利用者の様子観察や排泄チェック表を上手に活用して、利用者それぞれの排泄パターンを把握できるように努め、安全に十分配慮しながら、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。個々の習慣や身体機能にも合わせた工夫をプランにも組み込み、言葉使いをはじめ丁寧な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食べ物、水分をゼリーで固めるなどの工夫や、適度の運動の声かけや介助など、一人ひとりに合わせた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの好みに合わせ、ゆっくりと入浴していただけるよう支援している。入浴拒否がある方は、浴室を温めたり、入浴の大切さを説明し「入ろうかな。」と言う気持ちになっていただいている。また、曜日にとらわれず、翌日に延期するなどして、気持ちよく入浴していただけるよう支援をしている。	利用者の健康状態や体調を観察すると共に安全面に十分配慮して、本人の好みや習慣に沿って入浴が楽しめるように支援を行っている。利用者の状態に応じて清拭や足浴などへ切り替えている。入浴を拒否されるような場合には、時間をかけてゆっくり話を交わすなどの対応を心掛けると共に、ミーティングでも気持ち良く入浴して頂けるように利用者本位の支援を検討している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが落ち着かれる場所（ソファーやこたつ）を作り、好きな時に、休息したり、安心して気持ち良く眠られるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し、スタッフは、薬の目的、副作用、用法や用量など理解している。また、薬の変更時には、口頭、連絡帳に記載して確認し、服薬時は、必ず2人で確認してから与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を生かせるよう、利用者の希望を聞きながら、毎月行事を計画し、気分転換できるよう支援している。また、体や頭を十分活用していただくよう毎日レクリエーションや貯筋体操にも力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日のちょっとした散歩や花見、遠足、ソーメン流しといった外食など、家族やボランティアの協力をもらいながら、出かけられるよう支援している。	利用者の希望は日常会話を通じて把握に努め、時にはご家族やボランティアの協力も仰いで、地域のいきいきサロンへの参加をはじめ、季節の花見や遠足、夏祭り、敬老会、クリスマス会、外食など季節に合わせた外出を企画している。日常的には、散歩や買物・ドライブ・一時帰宅・墓参り等、外出が楽しみになるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ、支援している。自己管理できる方には、買い物で使ったりされるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望により、自由に電話したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、木の温もりが感じられ、窓も大きく、周りの畑が見えるなど、開放感がある。季節感のある飾り付けや、観葉植物を置くなどし、空調や温度などにも注意し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	木の温もりが感じられるゆったりとしたホームで、大きな窓からは景色を眺められ、利用者が1日の多くを過ごす空間は、ソファや掘り炬燵、ウッドデッキなどがあり、家庭で過ごすようにくつろげる環境になっている。季節の花や手作りの作品、観葉植物などが飾られ、明るくて室温や湿度にも配慮された居心地の良いスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室の堀こたつなど、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具、位牌、家族の写真などを持ち込まれ、好みの部屋にされ、ご本人が居心地よく安全に過ごせるよう工夫している。	居室には洗面台・ベッド・エアコン等が設置され、戸外にも自由に出入りできる。使い慣れた家具や寝具・位牌・写真・テレビ等を持ち込んで頂き、落ち着いて居心地よく過ごせるように、ご家族とも協力しながら環境づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、転倒を防止できるように、物の配置に配慮して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当時より、管理者、職員全員で理念を考え作成し、施設内に掲示し、朝夕の申し送り時唱和し、常に意識して理念に沿ったケアに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンや、自治会の大掃除参加、地元中高生の職場体験実習など積極的に受け入れ、グループホームの存在を理解し、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	避難訓練にて、ボランティアの方々にも認知症の方への避難方法を実演指導したり、行事等への参加にて、ご家族や、ボランティアの方々に、接し方など説明し理解して頂くよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進委員会を開催し、入居者様のサービスの実施、評価の取り組み状況について報告し、助言や協力をお願いし今後のサービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会の参加、事務手続き等や、ボランティアの依頼など日頃からご指導、協力して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、4ヶ月に1回のペースで研修委員が発表する事例を検討し、身体拘束について認識を強め、スタッフ全員で拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上、定期的に関催し高齢者虐待防止法等について研修会への参加や実際事例検討する事で虐待についてスタッフどうしで意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修に参加し個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	運営規程等を説明し、各項目ごとに理解して頂ける様、丁寧にわかりやすく、疑問点など、質問しやすい雰囲気を作り納得し契約して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の近況の報告を兼ねて苑だよりを作成郵送している。又、面会の時直接お聞きしたり、苦情、相談、要望等の欄を設け対応している。また、家族会など開催し要望等をお聞きし信頼関係を築けるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、職員がスタッフ会議にて意見や、提案を話し合える場があり全員で検討しケアに反映させている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規定の範囲内で、職員の要望を受け入れ、勤務表を作成しスタッフ一人ひとり仕事に対する意欲がもてる職場環境作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、スタッフが平等に研修に参加できるように計画、実施し、資格取得の受験費用の補助など、職員のケアの向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会に加入し、研修会に参加し同業者との意見交換や情報交流を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時や入居時ご本人と面会し今までの生活歴や身体状況、これから始まる新しい生活への不安な事をお伺いし、安心して頂くよう職員全員で理念をモットーに、住み良い居場所を提供できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在のご本人の様子、ご家族の状況不安に思っている事、要望困っている事などを聞き、ホームでの生活で支援出来る事、ご家族に協力して頂く事など、説明し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が、今必要とされる支援を見極め、色々なサービスを含め、総合的な支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日々の生活の中で共に支え合い家庭的な雰囲気作りに努めスタッフ、地域の方、ボランティア、ご家族すべての方々のつながりを大切にし、支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の絆が途切れないよう配慮し、入居者、ご家族様の気持ちを大切に寄り添い、入居者様の対応に困った時など、ご本人の気持ちを大切に、ご家族に相談し支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域のサロンに参加して頂いたり、知人、友人にホームへ気軽に訪問して頂いたり、ご家族の協力により自宅へ帰られたり、墓参り等、住み慣れた人や場所が途切れる事のない様、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様がいつでも会話ができる環境作り、コミュニケーションが取りにくい入居者様もスタッフが関わり、支え合える様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に来て頂ける環境作り、必要に応じて相談にのるなど、これまでの関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者様、ご家族を中心に本人の意向に寄り添い、又意思疎通の困難な方にはご家族より情報等を得て、すべての入居者様が平等にわけ隔てなく暮らせるよう職員一同気持ちを一つにし、心をこめて対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり違うこれまでの生活歴や、今まで過ごしてこられた環境、又サービスを利用する事になった経緯をお聞きし、それぞれに合ったケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、毎日の暮らしの中で、心身状態、出来る事、出来ない事を見極め、現状の自己能力を理解し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族がどのように暮らしたいのか、どのように暮らして欲しいのかを、本人、家族、ケアマネ、スタッフ、主治医等で話し合い、それぞれの意見を反映してアセスメント、モニタリングを行い介護計画に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、食事の量、排泄状況、バイタルや日常の変化や、気づきを記入しスタッフ間で情報を共有し、入居者様の言葉、行動をヒントに、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の状況や希望に応じ急な外出支援や、通院介助など柔軟に対応し、ご本人や、ご家族の希望に添える様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らせる様地域資源（訪問看護、民生委員ボランティア、歯科衛生士、消防局）などを最大限に活用、協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に往診し、又急な体調不良にもすぐ往診、専門外の病院受診にも紹介状の手配など、安心して適切な医療が受けられる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日常の関わりの中で些細な体調変化を見逃さないよう早期発見に努め、協力医療機関についても、いつでも連絡が取れ適切な受診、看護が受けられる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはスタッフが付き添い、入院に至るまでの状況を報告するなど情報交換を行っている。又入院後も面会に行き安心して治療が受けられる様に支援し、病院側からの経過内容を聞くなどして関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについてのアンケートを取り、ご家族、ご本人の希望、要望を伺っている。重度化、終末期が近い場合は変化が見られる度に、事業所、ご家族、主治医で今後の対応について話し合い、ご家族が望まれる対応をし、終末期をその人らしく過ごせる様、ターミナルケア体制を構築しチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応のマニュアルを作成し、応急手当や蘇生法を研修、訓練に参加し、その時に、慌てないようにシュミレーションをしておくなど準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防災教育、災害時の対応の研修会を行っている。年1回の合同夜間避難訓練には消防局、地域の方々の協力を得て入居様様が安全に避難できるよう訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し自尊心を傷つけない言葉で接し、どんな時にも笑顔で理念に基づいた支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせた声かけや対応を行い、「はい」「いいえ」で答えられ自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合ではなく、一人ひとりのペースに合った声かけ対応に努め、入浴や食事でも無理強いせず、その日の体調や気分に合わせて一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ビューティーヘルパーさんが定期的に来苑され髪をカットして下さり、一人ひとりの生活習慣や好みに合わせて外出。行事等にはお化粧をされたりしておしゃれ楽しんでおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食材や、料理をお聞きし、旬の食材を使い栄養価を考えて調理に工夫している。又食材の下ごしらえをお願いし、手伝える喜びを感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、状態や病歴などで形態や、量、水分量を考えバランスの取れた食事が摂れる様支援している。又、栄養士の資格を持つ職員に献立表を見てもらい指導を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを理解し、毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアの声かけや介助をし、入れ歯（洗浄剤）の手入れなど、口腔ケアが習慣となるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声かけ、誘導、介助を行い、出来るだけトイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫（乳製品、食物繊維の多い食材等）を取り入れて、水分チェック、適度な運動の声かけ（レクリエーションの参加）など便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの希望に合わせて、ゆっくり入浴して頂ける様に声かけし、入浴を拒否された場合は、時間をずらしたり、曜日の変更、清拭、足浴など入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれプライベート空間があり、好きな時間に、自由に過ごして頂けるよう見守り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表にて、薬の目的、副作用、用法、用量を理解し、薬の変更時には口頭、連絡帳にて把握し服薬の重要さを認識し、再々のチェックを行い、二人で確認し服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ストレスを溜めない様、一人ひとりの気持ちに添った楽しみを見つけ、張りのある生活が送れる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、苑庭の散歩、行事等（花見、遠足、ソーメン流し、敬老会、夏祭り）ご家族、ボランティアの方々の協力をもらいながら季節に合った外出支援を行い、入居者様に楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理の出来る方は所持しておられ、買い物など使える様支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の希望によりご自由に電話をしたり、受けたり、出来るよう支援している。携帯電話の持ち込みもされている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物は木のぬくもりが感じられ窓も大きく、まわりの畑が見え開放感がある。季節感のある飾り付けや、観葉植物などを置き、空間や、湿度、温度などに注意し、居心地よく過ごせる様工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間（リビング）の中で1日で一番長く過ごせる場所として座席の工夫や、和室など寛げる場所を提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、位牌など持ち込まれ本人が居心地良く過ごせる様工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの力を見極め、必要な目印を付けたり、安全に移動できるよう、転倒事故防止の為、物の配置に気を配り、自立した生活が送れる様支援している。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない